

# 青少年育成センターだより

第61号 平成31年3月



みなさんは「ユニセフ（UNICEF 国際連合児童基金）」についてご存知でしょうか。ユニセフは、子どもの権利を守るために活動している国連機関です。

そのユニセフが発行している資料の中に次のようなことが記載されていました。

- ・世界では、1年間に560万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎えられずに命を落としています。・・・
- ・世界では、6億6300万人が安全な水を利用できず、24億人がトイレなどの衛生設備を使用できません。・・・
- ・小学校に通えない子どもの数は、6100万人。・・・
- ・暴力や搾取、虐待、児童労働や児童婚、子ども兵士などの問題に直面している子どもたちが多くいます。・・・

（ユニセフ・マンスリーサポート・プログラムの案内から）

いかがでしょうか？本当に心が痛む数字ですね。このように世界には、恵まれない子どもたちがたくさんいることを忘れてはいけません。日本の子どもたちに世界ではこのような状況があることを知らせ、考えさせることが大切だと思います。

## こんな子どもに育てたい

最近、子どもがおこす問題が年々増えているように思います。

いじめ、家庭内暴力、凶悪犯罪の低年齢化、非行化等々、良くない話を聞くことが多いです。本当に最近の子どもは悪くなったのでしょうか。

新聞に心に残る記事が載っていたので紹介します。今から8年前の東日本大震災後のことです。

・・・3. 11からまもなく、一人のベトナム人記者が取材で被災地に入った。避難所で少年にインタビューする。少年は津波で両親を亡くし、激しい寒さと飢えで震えていた。一つのおにぎりを家族で分けて食べるような状況だった。記者は見かねて少年に自分のジャンパーを着せかける。その時、ポケットから一本のバナナがぼろっとこぼれ落ちた。記者が「バナナ、欲しいか」と問うと、うなずくので、手渡した。ところが、少年はそれを食べるのではなく、避難所の片隅に設けられたみんなで共有の食料置き場に持って行き、もとの場所に戻ってきたという。記者はいたく感動する。帰国すると「こういう子どもはベトナムにはいない」と報道した。この記事が大変な反響を呼ぶ。かつてドラマ“おしん”が大人気になったお国柄だ。ベトナムからの義援金は百万ドル（約8000万円）にのぼったが、このうち、「バナナの少年にあげてください」という条件付きが五万ドルもあったというのだ。・・・

いかがでしょうか、本当に心温まる話ですね。日本にはこのような素晴らしい行動がとれる子どもたちがたくさんいます。

日本人は古来より、人が生きていく上で大切な「惻隱の情」「誠実」「忍耐」「感謝」「思いやり」等の精神を培ってきました。このような精神が、この少年の心の中に残っているのでしょうか。防府にもこの様な子どもがたくさんいますし、これからもこのような子どもがどんどん育ってほしいものです。

私たち大人には子どもを育てるという大きな責任があります。子どもは大人を見て育ちます。子どもたちに尊敬され、信頼される大人になりたいものです。

私たち大人の中にも、きっと日本古来の伝統的な精神が宿っているはずですから。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）